第七號要目

漢方醫家の立場から「灸の話」放送　矢數　有道
事件を觀る　大塚　敬節
特輯　脚氣の漢方療法　龍野　一雄
蟲樣突起炎の症狀及診斷（承前）　柳谷　素靈
手に觸れる經絡　石原　保秀
黄櫨と膈噎
支那長江餘滴（一）　龍軍醫中尉
無醫村を行く　神谷　卓
最近の讀書より　龍野　一雄

◆投稿規定◆

讀者各位の投稿を歓迎す。
題目、内容は時事、學術、文藝其他隨意。
長さは一〇〇〇字以下とす。

非常時局下に於ける
漢藥業者の自肅自戒を要望す

近時漢藥業界にも種々憂慮すべき問題が繼起しつゝあるが、これ等の諸問題は業界人の時局認識の淺薄狹溢を示すものとして識者の顰蹙を買つて居る、その最大なるもゝは物價問題に對する業者の無關心否或る場合には國策を阻碍するとさへ見ゆる態度についてゞある。

默視し得ぬ
奸商的市價釣上げ

最近に於ける漢藥品市價の昂騰は、これを他物價騰貴に比較するときは著しい跛行狀態を現はして居る。昭和十二年より同十三年中頃までの値上りは僅かに一割乃至二割といふに過ぎなかつた、併も當時値上りの言逃げとして『配達料金加入』といふ妙な遁辭を構へた業者特に卸し賣業者はむしろ良心的であつた、然るに本年初頭より　彼等の態度はマルで斬り取り强盜的ファ〳〵しい態度をとるに至つた。從來一斤六百瓦建てを以てした取引を何の豫告もあいさつもなしに封度五〇〇瓦建てとして一擧に二割の値上を斷行した。十三年十月頃まで一斤（六〇〇瓦）四十八錢の中品當歸は現在二圓乃至二圓二十錢となつて居る、四倍乃至四倍半の値上げである、これを其他の日用品が、事變前一〇〇に對し僅かに一三八位の指數に過ぎないのと比較する時は正に天地宵壤の差があるではないか。

絶對に品不足なし
厚生省當局の言明

漢藥品のかゝる不當なる値上りは抑も何にゝ原因してゐるか。我東亞醫學協會は創立以來漢方醫藥の普及を目的の一つとして掲げて日夜奮鬪し來つたのである。それ故、切角復興の機運に乘ぜんとする漢藥界が、國策に副はない如き價格の樣相を示すことは將來の爲に深憂すべきことであるので、去日この點につき厚生省當局に訊したる處、醫藥品は現下の我國の實狀に於て絶對に不足させてはならぬ故漢藥も、品不足の憂なき樣充分なる輸入の手當をして居るとの言明を得た、この言明によつてこれを見れば騰貴の原因は一重に一部問屋業者の賣國的奸手段がこの不當な値上りの原因であると斷定しなければならない。

業者よ自戒せよ

今次事變の前途について最も憂慮し、全國民の努力によりて阻止しなければならないのはインフレーションである、インフレーションの防止の爲に大藏當局が如何なる苦心を拂ひ、物價委員會其他が如何なる努力を拂つて居るかは何人もよく知る處であり陸相亦最近低物價維持について言明を發せられたのである、物價をあげない爲にあらゆる手段をつくし卍がらめに物價を縛りつけてゐるのは結局、その政策によりてのみ事變をして有終の美をなさしめ得るからである。公定價格を決定されて居る物資の如きは、それ自身では騰貴變動を起すものではない、公定物價さへも遂に破れざるを得ないであらう原因は公定外物價を釣上げて行く奸商の奸手段が一大原因となつて來るのは大戰時の獨逸の物價の經驗がこれを有力に物語つて居るのである。一方銃後にある者の國策への愛國的協力は極力この高物價を阻止するにあり、自己の扱ふ商品が統制外、公定外なるを奇貨として非愛國的物價釣上げを策し、獨り私腹を肥さんとするものがあるなら、斷乎として排斥されなければならない。

大阪東京等の經濟警察當局の適切なる取締を要望す

事態は斯くの如くである。今や單純なる業者の自戒のみを以ては足れりとしない取締當局の繁忙は察するに餘りあるも、この際、一層の努力をなされ特に漢藥問屋業者の集中する大阪市、東京市等にあつては物價騰貴助成の一因なりと目される漢藥物價に對しても取締りの手を伸されんことを希望してやまないものである。

（一）

漢方醫家の立場から

「灸の話」放送事件を見る！

矢數有道

（一）

六月三十日、東京中央放送局から田中恭平氏が「灸の話」と題して放送したが、これを聴取した醫師諸君の憤激を買ふに至り、一大センセーションを捲き起した。特に四谷區醫師會は敢然とこれが糺彈に乗り出して、七日七日附を以て意見書なるものを提出し、日本放送局を始め厚生、内務、遞信の各省、警視總監の注意を喚起したそうである。續いて七月二十四日日本醫師會も北島會長の名を以て厚生大臣、並に日本放送協會長宛に同樣の抗議を申込むだ。

この抗議に對して當局はどうゆう態度に出るか！　それは勿論のこと未知數に屬する。が果して意見書に云ふ如く田中氏の演說が現代醫學を侮蔑し世相を紊すものであるならば、當局としても相當の責任をとらねばなるまい。醫師會の要求どほりに適當なる方法を以て迅速速に右の放送を是正すべきである。しかしそれは意見書に云ふところが何處からみても至當である場合の問題であることを附言せねばならぬ。

當局者はどうこれを裁くか。醫師會の威嚇に屈伏して、一新機軸を劃した折角の醫療放送を撤回するであらふか。それとも當局者の所信を敢然と貫き通すか。或は當らずさわらずウヤムヤに葬り去つて、二度とこんな放送番組は作るまいと逃け込むか。少くとも醫療に關係ある人士の重大關心を持つところである。

（二）

療術行爲者が無暗に發展するといふことは、六萬の醫師にとつて一人とも雖も歡迎するところでは勿論ない。特に近頃のやうに醫師の惡口を恣にして、醫師以上の治療費をせしめて天下を横行濶歩してゐる現狀に於ておやである。

從てこの放送問題は全國の醫師諸君の一人〳〵胸の内をきいてみれば、恐らく四谷區醫師會の意見書に現はれたところと異るところはあるまいと思ふ。反對に全國の療術行爲者は田中氏の演說を双手を擧げて歡迎することであらうし、特に鍼灸家諸君は尙更のことである。

そこでこれは、その兩者に全くは繋りがなくもない、然し純粹には兩者のどちらでもないといふ漢方醫家の立場からの批判といふことも興味あることであると云はねばならぬ。そしてそれは現在に於ては一番公平な觀方であるかも知れない。

漢方醫は醫師であつて療術行爲者ではない。立派な日本醫師會員の一人である。しかし一般の醫師の如くその醫師會員たることに別段の誇りを感じてゐるわけでもない。寧ろ西洋醫學に根ざした現在の日本醫師會員諸君に向つて、革新の息吹きをふき込まうと努力してゐるのである。而て漢方醫といふ存在が、醫師會からは繼子扱ひされて、その治療法に對しても無理解なる追害を受けてゐるといふ點に到つては、療術行爲者と何等異るところはない。

從てどちらに味方したいといふやうな偏跛な感情は始めから微塵も持ち合せてゐないのである。たゞ公平なる醫學的良心と社會的使命とからこれが是非長短を論斷しやうとするに止まるのである。

（三）

田中恭平氏の論點と、これを反駁した四谷區醫師會の提出の意見書とを對比してみると、一般の醫師諸君が實に時代後れの頭腦しか持つてゐないといふことがわかる。療術行爲者がこれに乘じて醫師の領域を侵蝕してゆくわけもなる程と首肯れるのである。ある療術行爲者は世界中の醫書を輯集して讀破し、いかなる醫者に出會つて議論を鬪はしても負けたことがないと昂言してゐるそうである。田中氏の指摘したところは悉くは眞理ではないとしても、その中には慥に現代醫學にとつて頂門の一針たるものもある。徒らにヒステリックに騒ぐことなく、少しは所謂日本醫學なるものに對して眞劍な反省を試みる必要がありはしないかいま兩者の言ひ分を摘錄してみやう。

イ、田中氏（甲）は灸點は白血球を增加し、新陳代謝を旺盛ならしむるにより身體を强壯にし、萬病の治療に卓效ありと述べたのに對して、四谷區醫師會の意見書では（乙）、それは必ずしも萬病に效果ありといふ結論にはならぬといふ。從て單にそれだけの理由で灸の效果を稱揚するのは片腹痛いといふわけである。これは婉曲なる灸の否定であらふ。

しかしこれは別段灸の效果の眞實性に就て觸れた問題ではない。灸が白血球を增加するといふやうな科學的證明は西洋醫者が實驗報告したことであつて、そのために醫學博士の稱號まで貰つてゐる。灸は白血球が殖えるから效くのではなくて、灸の效果ある理由の一つとして白血球が殖えることを博士が發見したに過ぎない。從て若し白血球が多くて困るやうな病氣に對して灸をすえると、反て白血球が減少して來ることも考へなければならない。灸をやると血中の糖が增加するといふ實驗報告と同時に、若し糖尿病に灸治をやると反て血糖の低下を來すやうな事實もあるが如くである。灸治が單に白血球を增すといふ働をだけで萬病に效ありと結論したら、勿論乙の言ふ如く噴飯ものであつて、甲の演說は誇大廣告である。しかし甲は現代人が科學的證明といふことを無暗に有難る通弊から、上記の博士論文を借用したまでのことであらう。灸の效果はそんな證明があるなしに關らず、嚴然たる事實であることを力說する必要がある。

ロ、現今の醫藥によつて治癒し得る疾病は一つもないといふ甲の斷言はもちろん過言である。これを放送局から言はせたことに對して醫師會が怒るのも當り前へである。その醫藥の中に漢方藥も含まれてゐるものなら、尙更われ〳〵と雖も默認出來ぬことで、しかもその治せない病氣をみんな灸でなほせると揚言したことは失言も甚しい。もし實際に於てそれを證明せよと迫られたら、恐らくその高言を撤回せねばならぬことは明らな事だ。察するところ、甲は現代人の醫藥盲信を、特に西洋藥や注射などの盲信を打破せんが爲めに極言せられたことゝ思ふが、然しこの言が特に有害なる影響を國民に與へるものであれば勿論取消させる必要がある。が恐らくは乙が憂慮するほど、まだ西洋藥に對する過信は薄らぐことはないから御心配御無用と言ひたい。

これに對して西洋藥でもサルバルサンやキニーネがあるなどと抗辯したことは實に拙策であつて、問ふに落ちず語るに落ちたとはこのことである。自ら醫藥の無能を白狀したやうなものである。

ハ、胃酸過多症に對するアルカリ劑の問題は既に陳腐なシロモノであつて、別段彼れ甲なるものゝ獨創論でもなんでもない。西洋醫者が既に言つたことを甲が拜借したゞけである。乙は、胃酸過多症に對して單純なるアルカリ劑を用ひる醫師は一人もないと言明されたが、これは少しく眉唾ものではあるまいか。用ひない人は一人もないといふ誤植でないことを衷心より祈る次第である。胃酸過多症だけでも根本から治ほす方法を研究するやうに現代醫學に向つて希望するのである。

ニ、灸點術にて治癒し得る盲腸炎は、内科的醫學療法にて完全に治癒すと乙は斷言した。自ら比較實驗もしないで、第一灸のことも知らずにそんな斷定を下すといふ心臟にはアキれざるを得ない。曾て〇〇博士はある座談會で漢藥でなほるやうな盲腸炎は水を呑ませて置けばなほると壯語したことゝ好一對である。漢方醫者は約九十何パーセントは盲腸炎を内服藥だけで根治してゐるが、—しかも數日乃至十數日の治療日數で—そうすると盲腸炎は水を呑ませて置けば九十何パーセントは數日間に治ほる性質のものであると考へて差支へがないか。もし差支なければ醫者も要らぬし、況んや外科手術をや。

以上のやうな非科學的な論據で漢方を排斥し灸を否定するといふことは、科學至上主義者である西洋醫者の言であるだけに悲しまざるを得ない。

ホ、甲は現時の如き非常時局にあつて人口增殖を必要とする際は妊娠を中絶するが如き療法は極方排除せねばならない、といふことを力說し、惡阻の治療法として西洋醫者が行ふ手段たる人工流產は時局に適せざるものであつて、灸をやれば立派にツワリが治せるとした。これに對し乙は次の如く反駁した、即ち人工流產法を行はざる可からざるやうな惡性のツワリには灸治は無效であると。事實惡性のツワリに對して如何なる療法も效果なく妊娠中絶を餘儀なくせしめられる場合もあることは否めない。しかし西洋醫者は漫りにこれを用ひ過ぎはしなかつたか？漢藥を使つてみて知ることだが人工流產が必要であるといふ場合に遭遇することはそれ程屢々ないといふことである。もし灸治によつても、人工流產の適應症が何分の一かに減らすことが出來るならば、現時の日本にとつて大いに幸福なことである。甲がそうゆう社會的な見地から灸の效果を宣傳するのであれば何も頭からこれを排擊すべき筋合のものではない。國家が直ちにこれを後援すべき性質のものである。

（四）

要するに、この問題は、そうゆう學問上の爭ひに似てゐて、實はそうでないといふことを知らねばならない。醫師の職場が、これ等療術行爲者によつて侵害されることを恐れてゐるところへ、日本放送協會といふ國家的な舞臺から療術行爲者に都合のよいことを放送させたといふことに對する抗議であると見る方が至當であらふ。元來療術行爲者は自分の療法を實質以上に宣傳する通

（六頁へ續ク）

脚氣の漢方療法

大塚敬節

發端

今年も亦脚氣の流行する季節となつた。脚氣に漢方療法を採用するときは、單にビタミン劑を使用するよりも、經過が短縮され、頗る效果の見るべきものあるは、吾人の日常經驗してゐるところである。

嘗て明治十一年に脚氣病院なる官立病院が神田五軒町に開設せられた。この病院は表向きは漢方と西洋の兩醫術を以つて、脚氣を治療して、その成績を比較するために設けられたと思はれてゐるが、事實はかくの如き學術研究の目的を以つて生れたのではなく、當時の政府當路者の政治的畫策の結果であつたことは、蘇門山人著長谷川泰先生小傳に詳である。

昭和の今日若し官立脚氣病院が設立され、漢洋兩醫術を以つて、その治療成績が比較研究されたならば、漢方治療の優秀なる點が、一般に十分に認識されるのであらうと思ふ。

脚氣の名稱

脚氣の名稱は古く晋隋の頃から使用せられ、金匱要略、肘後方、病源候論等に、既にその名が見えてゐる。而して唐の天寶中に、王燾が撰述せる外臺秘要方には、脚氣論なる一篇を設けて、第十八、第十九の二卷に於て、此が詳細を論じてゐる。脚氣なる名稱が、一般に廣く使用せられる樣になつたのは、王燾以降であつて、千金方の如きは同じく唐の孫思邈の著であるが、此書にはまだ脚氣なる名稱を揭げず、脚弱の稱呼がある。脚氣とは元來脚疾の意であるが、漢方醫書で脚氣と呼ばれた病氣が皆悉く現代の脚氣と同じものであるかどうかは一應の吟味を必要とする。又脚氣には種々の異名があるが、それ等の點に就いては、今村了庵の脚氣鉤要、同じく脚氣新論、博濟病院編纂の博濟堂脚氣提要等を參照していたゞくとして、本稿では直ちに症候と治方を述べることにする。

症候

脚氣は之を大別して、**神經性症**、**萎縮性症**、**水腫性症**、**急性惡性症**或は**心臟性症**に分けることが出來るが、その主徴とする處は、運動及び知覺の障礙並に心臟疾患の症狀である。而して是等の症候には輕重種々の別があつて、最輕度のものでは、患者は唯僅かに之を自覺し、就業上殆んど何等の疾苦を感じないけれども、其重症なものでは甚しい疾苦を訴へ、疾病は頗る急性に經過して致死的轉歸をとるに至るのである。

一、神經性症　病氣が徐々に來り、下腿の倦怠と萎弱の感を訴へ歩行に當つて容易に疲勞し、腓腸菌は緊張し、時としては、ここに疼痛がある。患者は頭重、口渴を訴へ、容易に脫汗し、次いで脚部手指、口圍に知覺鈍麻の感を訴へるに至り、下腿に輕度の浮腫を現す樣になる。知覺障礙はまた下腹部にも來り、眼瞼、耳殼にも現はれ、病勞の進むに隨つて、下肢一般、手背、前膊に伸展することとなる。

暫時にして患者は心悸亢進、心窩苦悶を訴へる。心悸亢進は、疾病の初期には只運動時にだけ現はれるが、後ははは安靜時にも起る。食氣は缺乏し、利尿は減少し、大便は秘結する。膝蓋腱反對は疾病の初期には亢進し、後には減弱或は消失する。又脚部の粗大力は減退し、患者は容易に躓仆する。脈搏はその數を增し、速にして大且つ軟である。

二、萎縮性症　本症も亦神經性症の如く、脚部の萎弱感、腓腸部の緊張を以つて徐々に起り、その後脚部の萎弱は日を逐うて漸進し遂に大腿は股關節に於て輕度の屈曲位置をとり、下腿は膝蓋より以下に於て鉛直に懸垂し、足部は內飜馬足の狀となる。其他脊髓痨の際に見られるブラハトロムベルグ氏症狀を呈する如く凹沒する。上述の樣な狀態に陷つた患者は、動作不能となつて、病褥に縛せられるに至る。

知覺障礙も亦神經性症の如く現はれるが、脈搏及び心臟に異常を來すことはない。浮腫も僅かに存するか或は全く缺如する。

その他萎縮した筋肉は痙攣性攣縮に陷ることが間々ある。これは殊に腓腹筋に見られる。

本症は甚だ緩慢な經過を辿るもので、數月から年餘に亙ることがある。

三、水腫性症　本病は或は神經性症の樣に、脚部の萎弱をもつて徐發し、或は萎縮性症についで起る。患者は歩行困難の漸進を訴へるけれども、萎縮性症の際に見られる樣な顯著な運動麻痺及び筋肉萎縮を呈することはない。浮腫は本症の特徴であつて、先づ脚部に現れ、日を逐ふて、身體爾餘の部に廣延し、遂に漿膜腔に及び、患者は强度の心悸亢進、呼吸促迫、心窩苦悶を訴へ、利尿は著しく減少し、大便は秘結する。

心臟は殊に右心室に擴張するが往々心嚢水腫のために蔽はれ、其眞正の擴張を認めることが出來ない。

四、急性惡性症或は心臟性症　本症の特徴は急性心臟機能不全で、好んで少壯强健の人を襲ふ。即ち本症は健康時に俄然とじて起り、或は輕症脚氣の症候を前驅として、速に病勢の惡化を來すものである。患者は心悸亢進、心窩部苦悶、呼吸促迫に惱まされ、體溫は上昇し、食思は全く亡失し、煩渴、惡心、嘔吐を訴へ、利尿は減少し、顏貌は汚穢蒼白色となる。大便は秘結するを常とするが、病勢の募るに從ひ、稀に下痢を來すことがある。

其他患者は脚部に倦憊及び重感を訴へ、腓腸筋は緊張し、之を壓するに疼痛を覺える。又下肢に輕度の浮腫が現れ、知覺は鈍麻となる。ついで脚部の運動麻痺は增激し、心悸亢進、心窩苦悶は日を逐うて著しく增惡し、患者は何物かが胸內で爆裂する樣な堪へがたい苦痛を訴へる。眼目、口腔、鼻腔は開大し、瞳孔は散大し、其顏貌は甚だ險惡となる。

心動は其數を增加し、心臟部及び心窩部に汎發性の搏動を見る。心尖の音は幽微となつて曇濁し第二肺動脈音も亦曇濁する。頸動脈は跳動し、橈骨動脈は頻數且つ軟となる。上下肢端は厥冷して、紫藍色を呈し、肺臟は急性氣腫に陷つて心臟濁音部を狹小ならしめ、甚しい時は全く消失せしめる。橫膈膜その他の呼吸筋は不全麻痺の狀となつて、呼吸は大促迫を來し體溫は下降し、患者は精神を亡失して、遂に肺水腫の症狀のもとに斃れるに至る。

療法

脚氣は單獨に始めから脚氣として現れることもあり、他の疾病例へば肺炎カタル、胃腸障碍、腸チブス、赤痢、マラリヤ第の經過中或はこれの回復期に併發する。又妊婦、產婦等にも好んで脚氣が伴ふ。從つて脚氣の治療と共に原病の治療をも等閑視することは出來ないが、脚氣が併發したため、預後を惡化せしめる場合が多いからなるべく速に脚氣を退散せしめる樣勉むべきである。

藥方として吾人の日常用ひてゐるものには、次の如きものがある。

一、越婢加朮湯

麻黃三、〇　石膏四、〇　生姜、大棗各一、五　甘草一、〇　求二、〇

右一回量水二〇〇cc に入れ一〇〇cc に煎じ、滓を去り之を溫服す。

此方劑は水腫性のもので、胃腸障碍を伴はず、下肢倦怠、口渴、小便不利を主訴とする者に使用する。若し食慾不振、心下部停滯感心悸亢進等の狀あるものには禁忌である。

二、大柴胡湯

柴胡三、〇　半夏、生姜各二、〇　黃芩、芍藥、大棗、枳實各一、二　大黃〇、五

右一回量として二〇〇cc に入れ一〇〇cc に煎じ一回に溫服す。

心下痞塞、食慾不振、口渴、惡心、呼吸促迫、便秘等の狀がつて浮腫、シビレ感等を伴ふものに使用する。多くは一二週間で輕快する。

三、鷄鳴散加茯苓

檳榔、木瓜、各一、五　橘皮、桔梗各一、二　吳茱萸〇、五　蘇葉〇、三　生姜一、〇　茯苓三、〇

右一回量として二〇〇cc に入れ一〇〇cc に煎じ一回に溫服す。

前揭の神經性症の定型的のものに用ひて效がある。多くは一二週間で全治に至る。

四、黃耆桂枝五物湯

黃耆、芍藥、桂枝、大棗各一、五　生姜二、〇

右一回量とし水二〇〇cc に入れ一〇〇cc に煎じ滓を去り一回に溫服す。

シビレ感を主訴とする者に用ふ。ヒダミンB劑のみを用ひてゐたのでは、數ヶ月もかからねばよくならないものが、此方劑を服用すること二三週間で全治に至るものが往々ある。

五、當歸芍藥散

當歸、川芎各一、五　芍藥、茯苓、朮、澤瀉各二、〇

右一回量とし水二〇〇cc に入れ一〇〇cc に煎じ滓を去り一回に溫服す。

妊娠中及び產後の脚氣に著效がある。此方は浮腫多く大便下痢或は大便硬からざるものに用ふ。

六、四物湯加木瓜薏苡朮

當歸、川芎　各二、〇　地黃二、〇　芍藥二、〇　木瓜一、五　薏苡仁三、〇　朮二、〇

右一回量とし水二〇〇cc に入れ一〇〇cc に煎じ滓を去り一回に溫服す。

此方は產後の脚氣に用ひて著效がある。多くは二三週間で輕快する。

七、紫圓

代赭石、赤石脂各一、〇　巴豆三十ケ　杏仁五十ケ

右細末として丸じ一回に二、〇を頓服す。

急性症で衝心の兆を現す前に、此方で大いに瀉下せしめるとよい。

八、吳茱萸湯

吳茱萸一、五　人蔘、大棗各一、〇　生姜二、〇

右一回量として二〇〇cc に入れ一〇〇cc に煎じ滓を去り一回に溫服す。

衝心の狀あり、嘔吐、煩躁、手足厥冷を現す者には、速に此方を與へると、危急を救ふことが出來る。

九、八味丸料

乾地黃二、五　山茱萸、山藥、澤瀉、茯苓、牡丹皮各一、五　桂枝〇、五　附子〇、三

右一回量とし二〇〇cc に入れ一〇〇cc に煎じ一回に溫服す。

病後の脚氣でシビレ感、浮腫、腰脚萎弱の感あるものに用ひて效がある。

手に觸れる經絡

柳谷素靈

鍼

炎古典に登載されてゐる經絡の概念を我々は實際患者の體に具現實施せねばならぬ。

病氣を治療するに必要な穴なり經絡なりを患者の身體に於て適當に決定し之に灸刺して疾病を治癒せしめることが出來る。

本當の經絡とか本當の穴とかと云ふことをよく尋ねられるがそう云ふものを治療を目的として擇んだ穴なり經絡なりが、所期の目的通り病氣を治癒せしめ得るものであればよいのである。

それでは何を目的に穴を決定するか、骨度法や同指寸や繩法、折法等によつてそれ〴〵穴の割出し法がある。然し此等決定の基準を爲す分寸通り穴を決定したからとて、これで全部病氣を癒す目的に添ふと云ふものではない、つまり分寸通り穴を決定したからとて決定せられた穴に灸刺して病氣が癒ると云ふものではない、分寸は規矩準繩である、分寸は經絡經穴の方向を指示するに止まる。

かくて

言へば、分寸によつて決定せられたる穴道は何もならぬ少くとも治療に無意義である—と言はれるかも知れぬ、又、それでは分寸はあてになるものでないとすれば、分寸は無用の長物ではないかと言ふ向もあるかも知れぬ。

けれども、方向の案内書はどこまでも實際そのものではなく、案内書は案内書であり、實際は實際である。分寸は立派な經穴經絡の案内書であり、最も實際をよく說明してゐる、說明書であるには相違ない。

そして又、案内書が物語つてゐるやうに實際は常に流動周環して止まぬものであるとされてゐる。

十二の正經

八つの奇經が交相貫流一瞬の停息もなく天旋と度を同ふして運行してゐると考へられてゐる。

かゝる考へに立つてゐる經絡そのものが動である、動を動に於いて把握し得てこそ眞の經絡は摑めゐ動を靜的分寸によつて之を劃一的に決定しやうとしても出來ないのは當然である。

で

は分寸によつて經穴は決定されぬものかと云ふに決してそうではない、ただ、靜的な分寸を動的に扱ひさへすれば穴を把握するにさして難事ではないのである。

標幽賦に於て古人も「五穴を取りて一穴を用ひ、三經を取りて一經を用ふ」以つて端正に近からんと云ふてゐるやうに、一穴一經も考案して決定したものである。即ち穴決定の分寸は頭にあると云ふことになる。

それでは何を目標に穴を決め、經を定めるかと云ふに靈樞、九鍼十二原にある「血脈者在腧橫居、視之獨澄切之獨堅」や、壽史剛柔篇の「單經」や、その他「以痛爲腧」とか「陷脈」とか堅緊とかが目標になるのである、

つまり

分寸的に決定されたにしても如上の目標がその部位になかつたならば鍼灸に應ずべき氣血の往來無しと見てその近處を指搜し目標ある部を穴として決定するのである、その手應へは細線緊張物あり、膨大廣域的のものあり、棒狀あり塊狀ありて種々雜多の樣相を呈するものであるが、そのいづれも之に灸刺して自覺或は他覺の如何を問はず病的症狀の輕快する點であることには相違無いのである。

このやうな考へに立脚して患者を見てゐるうちに經絡經穴なるものを指頭に感じ得るに至るものである。

黃櫨と膈噎

石原保秀

赤ン坊が生れると、早速保險會社の勸誘員が來る、胞衣會社の店員が來る。さうして近頃では、榮養會社や其他からも、盛んに小册子が舞ひ込むと云ふ。胞衣會社では、金五十錢也の手數料を頂戴に及んで歸るのが通例だが、之は警視廳認可の料金である。所が近頃では反對に金五十錢也を置いて行く者があると云ふ。即ち五十錢也で胞衣を買つて行く者が生じたので、會社では恐慌を起し、警視廳でも其對策を攻究中だと云はれて居る。何で胞衣を買つて行くかは說明迄でもあるまいが、兎に角其れは、ホルモン劑の材料としての購入なのである。

私は昨年十二月號の漢方と漢藥誌上に「膈噎の藥」と題する一小文を書いたことがあつた。其れは私の知人に、癌關係の患者が相當あつた爲め、何か妙藥は無いかと云ふやうな相談を受けたからであるも、亦其時の噂の一つであつた。所謂溺るゝ者は藁をも摑むの意味のみでは無い、一方では相當効藥で癒つたとか、菱の實で此通りと云つたやうな患者に接することも決して稀では無いからである。最近の知人にも、大阪で胃癌、而も四人から確にさうだと斷定されたので、大に發奮(?)して蕓菜を飲んだら癒つたと云ふ人がある。爲にとう〳〵此人は、藥草屋さんに轉向して、爾來十餘年、現に大に活動して居るのだから驚く。此人の姉さんなども、子宮癌と診斷されて、モウ一週間位だらうと宣告されたので、どうせ死ぬのなら、家へ歸つて死にたいと退院したのだが、爾來五ヶ月餘、自分の身の廻りのことなどは、せつせとやつてのけて居ると云ふのだから奇蹟である。斯かる場合多くの人々は、一口に其れは誤診だらうと片づけて仕舞ふのを例とするが、果して其れで善いかどう歟。私は尙あらゆる角度から、充分の研究を望むや切なる者である。

此意味に於て私は、其後私の觸目したものを更に一つ紹介したいと思ふ。事は載せて野山千秋の天鑪堂醫策(文化元年)に在る。即ち

治膈噎奇方　黃櫨有三葉枝擺裁咬咀、爲二煎飲一神效

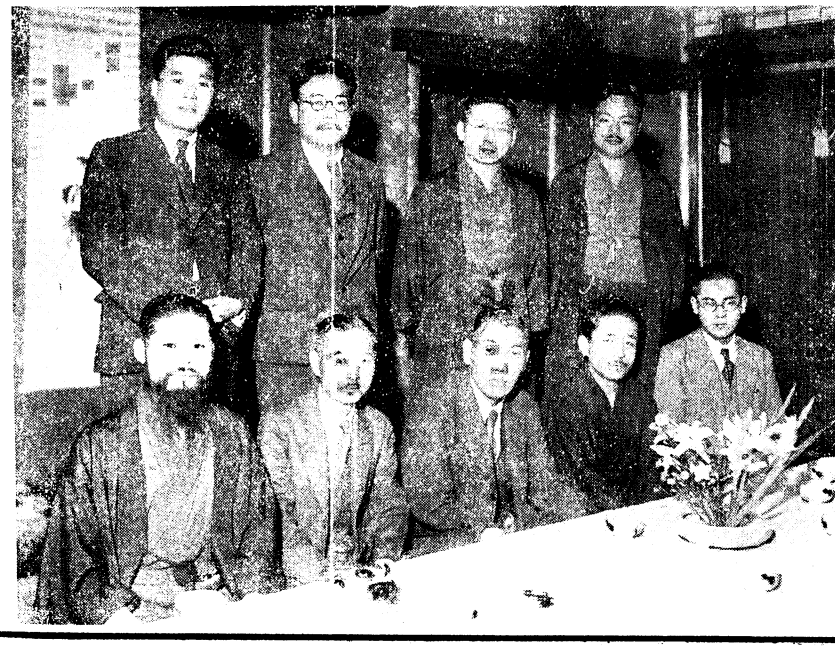
とあるだけのものであるが、千秋は何處から之を得たものであらう歟。彼氏は平安の醫、松溪の嗣子で內臺萬金方五百卷の外、古書冥中論、傷寒論一家斷、新方家鍼灸論同見證論、國產論、同幼々書、同外科書、同目科秘書、天鑪堂隨筆等の著かある。私は唯前記の醫策を手にせるのみで、深く其人と爲りを知らぬが、兎に角茲に追記して、世の篤志家の一材料に供する次第である。

談論風發の 清暑座談の夕

七月例會は豫告の如く七月二十二日夜蠶絲會館の七階日本間で行はれた。帝都の中央、酷暑の七月とはいへ、七階ともなればはるかに房總の山々はまつくら闇で見えないが、汐の香のする涼風がソヨ〳〵と吹いて來て正に別天地、この中で出席會員思ふ存分の懇談を重ね涼風を吹き飛ばして大汗をかいた次第である。當夜出席の諸君の芳名を左に銘する。

(順不同敬稱略)

西澤　生惠　　林　煥德
武井　嘉縣　　海老塚吉次
相川知以子　　龜岡　晋
原田　菊野　　西　綾子
工藤　訓正　　細川喜代治
豐崎喜久雄　　竹山留一郎
柳谷　素靈　　山本平一郎
清水　巖　　玻名城孫位
高橋幸次郎　　松浦　巖
小柳　賢一　　大澤　直成
大塚　敬節　　高橋　庄三
中原富一郎　　山口　良平
沖野與三郎　　矢數　有造
龍野　一雄　　金平ステ子
矢數　道明　　町田　昌彥



東亞醫學協會理事清水藤太郎氏　の渡支については前號にも一寸記してありますが、其後、上海にあつて愈々元氣にて使命達成に邁進して居られる由來信があつた。はるかに氏の健康を祝し一段の御奮鬪を期待する次第である。(寫眞前列中央は壯行會席上の清水氏)

支那長江餘滴（一）

中支派遣××部隊
軍醫中尉　龍　精

一、支那國民の特殊性民情

古來支那大陸は不思議な國であつた。千古の長江、黃河と俱に絕えざる流れと變らざる黃濁とは、今猶滔々として續いて止まない。惟ふに、これら二大河は古來凡ゆる外來文化を抱擁して來たのであるが、今猶同化し切れず何となく物足らぬ姿をしてゐるやうだ。

支那の歐米諸國との其れに比して遙に先輩であつたが、歐米流文化は今日に至る迄未だ〳〵普及してゐるとは云はれない。蓋し、この事は支那の特殊性民情なるものが強根く張つてゐたゝめであらう。

地球上如何なる國家と雖も、其の發達經過には歷史がある、この事實は吾人が今日、如何なる手段を以てしても悉くはこれを撤去し得るものではない。因つて吾人は今日、好むと好まざるとに拘はらず、此の特殊性民情を認めなければならない。又支那は古來家族制度を中心として發達して來た國家である（但し日本の家族制度とは外見類似せる點あるも、內容に於ては多少異なる點あり）決して歐米流の如き極端に近き個人制度ではなかつた。民國政府が樹立するや、政府は建設に餘りに急なりしため、支那の特殊性民情を能く顧慮するの暇なく、只管歐米流制度を盲採し、加之、實施に當りては武力を用ひたのである。ために隨分と無理な仕方をして來たものである。

聞く處によれば、民國政府の遣り方は徹頭徹尾、蔣介石一黨の專制政治であつた。國家の諸般法規はために、民情に卽しない處が多く、實際問題と法規とは甚しく迎合せず、却つて跛行的現象が續出し一般國民は酷しく迷惑したとのことである。

政治法規は須く特殊性民情を主幹としたものでなければならぬと惟ふ。特殊性民情を度外視したる政治は生きたるものとはいはれない。

二、支那に於ける醫事

前述の如く民國政府は諸般の法規を作るに當り、歐米流法規をその儘採り入れたのであつたが、就中醫事法規に關して比較的穩健な方であつたようである。それでも民國十八年には一大珍事が勃發したのである。それは古來支那に於て永年の間甚大なる努力と貢獻とを盡して來た所謂中國醫師なるものを消退せしめんとする法律問題が起つたことである。當時中國醫師は支那全土より急遽幾萬と謂ふ代表者が上海に集結し鋭き論理を以てこれに反對運動を起したのである。ところが民國政府は直ちに自己の非を悟り之の提案を撤同してしまつた。却つて政府は茲に國立中國醫學院なるものを南京に建設して中國醫師の養成に努力することになつたのである。勿論、同時に西醫々育機關並びに醫師法規が確立した譯である。

◇醫士法規

（イ）民國政府の認むる醫士とは國立又は政府の公認したる醫學校に入學し所定の學課を修得卒業したるものに非ざれば醫師たるを得ず（中國醫士、西醫士）

（ロ）入學資格は高等中學校卒業者、若しくはそれ以上の學力あるもの

（ハ）醫士國家檢定試驗　國家檢定試驗によりこれに合格したるものも亦醫士たることを得（中醫士、西醫士）

◇醫育機關の種類

國立、公私立中國醫學院、國立公私立西醫學院、國立、公私立藥學專門學校、國立、公私立齒科醫學專門學校、國立公私立助產學校

三、衞生

◇衞生設備　中支那方面に於ては上海、南京、三鎭、九江、南昌等の如き大都市にては衞生設備殆んど完全に近い。卽ち淨水道下水道、汚物集散處などは概してよく出來て居る。併し一歩地方に出づれば、未だ衞生設備は普及して居ない。ために民國政府は中央に衞生試驗處、防疫處等を設置し歐米流設備に模ひ鋭意これが普及に努力してゐたが未だ物にならなかつた。

◇衞生思想　右の如く所謂歐米文明國人の眼から之れを觀れば、支那に於ける衞生設備の普及狀態は全く幼稚にして甚しく寒心に堪へないものがあるに違ひない、衞生思想普及に關しては、在留歐米人も、中央民國政府も俱に尠なからず聲を高くして叫んでゐたにも拘らず、衞生設備並に思想は未だ遲々たるものであつた、由之觀之、支那人一般の衞生思想は皆無であるかといふに、さに非ずである。少くとも一度大陸の奧地を旅行したる經驗のあるものは悉く識ることであらうが、個人衞生思想に至りては、全く能く普及發達してゐるに愕くことであらう。次に日常目擊する一端を擧げてこゝに紹介しよう。

A、飲料水　支那人は幼兒から老人に至るまで飲料水は必ず定所にある水を使用するのである。多くは河川の流れある處の水を汲み取り次に必ず之を煮沸した後飲用に供して居る（多くは濁水である從つて支那の部落には開水屋と稱し濁水を賣買する商人があつてなか〳〵賑かなものである）

B、食料品　食物も亦必ず煮たものか或は油にてあげたものなどである、所謂「生き物」と稱せられるものは決して攝らない。洵に此點は不思議な位に嚴格なものである、殊に日本流の「サシミ」又は「スシ」の如き或は歐米流の如き「ハム」の如きは決して其儘では食はない、試みに「サシミ」「スシ」「ハム」等を支那人に提供しても必ず怕れて食べない。

C、被服　支那人は古來風寒暑濕燥などの天行邪氣を極度に怕れてゐた、如何に暑氣烈しくとも上衣を脫ぐことは決して欲しない。却つて上衣を着用した儘、炎天下にて營々として勞働してゐる、又雨露に身體を浸らすことをも極度に怕れて居る。

D、住居　古來支那大陸は所謂大陸性氣候に支配されることが多い、從つて風寒暑濕燥の差が甚大なので、此等の刺戟を防ぐために都合のよいように、家屋を造るのである。材料の大部分は土、煉瓦である、木材は殆んど使用されて居ない。僅かに內部の裝飾具位に用ひられて居るに過ぎない、概して家屋の各室は殆んど皆薄す暗い部室が多い樣である、但し一室のみは明るいものがある、この室は客室又は食室に當てられてゐる、この理由は、支那家屋は一般に外邪の烈しい流入を防ぐために窓を小さくしてある爲である。若し日本式の木造家屋を造れば絕えず病氣に襲はれる虞れが多分にある。（以下次號）

東亞醫學協會指定

和漢藥專門
高島堂藥局
東京市本郷區本郷五ノ五
電話小石川一六五七番
振替東京二五九五三番

和漢藥專門
牛黃丸本舗
紀伊國屋藥店
土田梅吉
東京市神田區花房町二
電話下谷五七番
振替東京三〇八〇五番

和漢藥專門
小島七五郎
小石川區原町十二

江州屋藥局
藥劑師　吉田一郎
埼玉縣深谷町本町
電深谷三一六番
振替東京八一四五番

和漢藥種問屋
植木萬策商店
振替東京二八二一一番
振替大阪五二〇二三番
振替小樽一二四六二番
神奈川縣二宮局區內井之口

蟲樣突起炎の症狀及診斷（承前）

龍野一雄

炎

症の特性として疼痛、腫脹、發赤、熱感の四つが擧げられてゐるが、蟲樣突起炎は深部に存する炎症なるが故にこの四つの全部を直接認めることは困難である。然し疼痛、腫脹、發熱の三症狀は蟲樣突起炎の本體が化膿性炎症であることにい基て、診斷及び他の類似疾患との鑑別上最も重要なる症狀として吟味するべき價値を持つてゐる。

右下腹部に於て起る疼痛は男子ならば先づ第一に蟲樣突起炎を考へねばならぬ。何となれば蟲樣突起炎による疼痛が最も多いことと躊躇なく敏速に適當な治療を開始せねば豫後を惡くするからである

急性に起る廻盲部、右下腹部の疼痛は蟲樣突起炎以外にどんな場合に起るだらうか。先づ比較的多く經驗されるものを擧げると

（一）結核性腹膜炎 の急性症で所謂症候性又は假性蟲樣突起炎と稱せられる中に含まれる。是は非常に多いもので廻盲部だけに硬結があり、急劇に腹痛發熱を訴へて來ると果して蟲樣突起炎として大黃牡丹湯で瀉下してよいかどうか迷はされることが屢々あり。結核性腹膜炎なら概して瀉下してはいけない。例へば大黃牡丹湯の證と考へて瀉下すると多くの場合たとへ一時疼痛が輕快しても後に硬結が著しく殖えて來る。

結核性腹膜炎の場合は筋性防禦が著明でないことが多く、又硬結が深部になくて比較的淺在性で最初から割合に硬いのが特徴である猶白血球數も參考になるし、どうしても鑑別が出來ねばその呈する證により投藥して經過を觀察するのが必要なこともある。

二、イレウス 急性蟲樣突起炎でも初期から比較的廣範圍に筋性防禦を呈することが有り、廻盲部に於ける重積筬頓、捻轉と鑑別が困難な場合があることを記憶してをかねばならぬ。併かもイレウスの場合は瀉下劑は概して禁忌で、反つて溫劑を使用せねばならぬ。

三、急性腸カタル

四、蛔蟲

五、腸チフス及びパラチフス

六、移動性盲腸 是は實に多く併かも手術鑑別は必ずしも容易でない。たゞ筋性防禦著明ならず且つ擴大せず、發熱なきか又は輕度廻盲部に軟くしてグル音を呈する腫塊を觸ることあり、舌概して尋常、白血球增加なし等を參考にする。大黃牡丹湯の證あれば同方を使用してもよい。

七、右總腸骨窩動脈の壓痛 を以て誤ることあり。

八、稀にはヒステリー メッケル氏憩室炎、遊走腎、鉛中毒、股關節炎、腸腰筋炎などと鑑別を要することもある。

婦人では卵巢、喇叭管の疾患を考慮してかねばならぬ。卽ち

九、急性附屬器炎

十、卵巢囊腫の莖捻轉

十一、卵巢濾胞出血

十二、子宮外妊娠の中絕

是等は決定的には婦人科的双合內診を行ふ必要があるが、大體問診と腹診とによつてこの方面の疾患の疑を置くことは出來る。子宮外妊娠は私は未だ漢方による療法に自信を持ち得ないから（恐く溫藥を用ふべきであらう）卽刻手術を薦めることにしてゐる。

私

が手術した一婦人は蟲樣突起が慢性萎縮性變化を起して居て併かも喇叭管と癒着してゐた（漢方と漢藥四の四に報告す）是などは鑑別診斷の困難な好例だが、斯る場合のあることを記憶して居ると少くとも正當に近い診斷に近付くことが出來る。

腹痛が急劇で且つ廣範圍に亙る場合には果して蟲樣突起炎に併發せる急性汎發性化膿性腹膜炎だか、或は胃潰瘍、腸潰瘍の穿孔だか、イレウスだかの診斷が頗る難しいことがある。又急性腹膜結核子宮外妊娠、急性喇叭管炎と區別を要することもある。

廣範圍の腹膜炎を起した場合には溫藥を使ふより外はない。胃腸の穿孔に對し漢方が如何ばかりの威力を有するや私は遺憾乍ら未經驗である。

蟲

樣突起炎の極く初期に於て疼痛が廻盲部に限局せず、反つて心窩部に之を訴へ、急性胃カタル、胃痙攣、胃潰瘍、急性腸カタル、膽石症、腎石、腎盂炎、脊髓癆の胃發作、脊椎炎、極く稀には急性膵臟壞疽、內ヘルニアの一時性筬頓などと誤られ易いことがある。かゝる際には主として柴胡劑或は瀉心湯或は陷胸湯類の證を呈するものであるから、先づ證に隨つて柴胡劑を選用し、その後の經過を觀察して大黃牡丹湯に轉じても遲くはなく、否それが正しい治療と云ひ得る。

廻盲部に於ける腫塊 Tumor は蟲樣突起炎の極く初期には觸知し得ぬことがある。然し時には病理解剖學的變化の餘り甚しくない時期に於ても既に蟲樣突起が勃起してゐて之を觸知することがある。

通常觸知し得る蟲樣突起の大さは單なる抵抗位に留ることもあり小指の太さ位のこともあるが、示指大以上になればその太さ、方向硬さ、周圍との關係も相當明瞭に判るものだ。拇指頭大或はそれよりもう少し大きい位の硬結なれば蟲樣突起自體の炎性浸潤による壁の肥厚を考ふべきだが、鶯卵大とか兒拳大とかになれば膿瘍と大網膜の包繞を考へなくてはならぬ。その場合該腫塊の表面の平滑か凹凸あるかを精査すべきだ。相當大きな膿瘍を形成してゐても波動は證明し難い。若し著明な波動があるとすればむしろ流注膿瘍や卵巢囊腫を疑はねばならぬ。膿瘍を確める爲の試驗穿刺は控へた方がよい。

廻盲部に於て證明される腫塊は蟲樣突起炎以外に例へば

一、糞塊

二、蛔蟲

三、腸結核

四、結核性腹膜炎

五、廻盲部アクチノミコーゼ

六、廻盲部癌

七、流注膿瘍

八、腸重積症

九、腸腰筋炎

十、遊走腎

十一、卵巢囊腫

十二、子宮外妊娠

十三、附屬器炎

十四、右總腸骨窩動靜脈

等で鑑別の困難なのはむしろ慢性蟲樣突起炎の時である。

腫塊を以て直ちに瀉下劑の證と考へてはならぬ。反つて溫劑の適應する場合がある。

才

ルトネル氏の臨牀症健學 N. Ortner: Klinische Symptomatologie を見ても判るやうに蟲樣突起炎と誤られる疾患は頗る多い。少し煩しいけれど次に同書の項目だけを擧げてみやう。

一、アセトエミー性嘔吐
二、右總腸骨窩動脈瘤
三、急性アンギーナ
四、腎臟性卒中
五、急性結核性蟲樣突起炎
六、腹筋疾患
七、後腹壁外性腫瘍
八、パラチフス（Cellulitis retrocoealis）
九、膽石症、膽囊炎
十、大腸炎
十一、股關節炎
十二、腸結核
十三、腸閉塞
十四、輸精管炎
十五、睾丸下降
十六、小腸穿孔
十七、赤痢
十八、上腸間膜動脈枝血栓
十九、マルタ熱
二〇、右腸骨窩異物
二一、五日熱
二二、膽囊破裂
二三、胃腸炎
二四、淋疾
二五、子宮外妊娠
二六、腸間膜腺出血
二七、腹膜內出血
二八、後腹壁外性出血
二九、輸尿管水腫
三〇、ヒステリー
三一、インフルエンザ
三二、肋間神經痛
三三、廻盲部筬頓症
三四、白血病
三五、胃の穿孔
三六、胃潰瘍
三七、マラリヤ
三八、流行性腦炎
三九、粟粒結核
四〇、脾脱疽
四一、痲疹
四二、バセドー氏病
四三、副腎機能不全
四四、睾丸新生物
四五、腎結石
四六、腎結核
四七、急性卵巢炎
四八、睾丸炎
四九、骨髓骨膜炎
五〇、オバリー
五一、膵臟壞疽
五二、膵臟炎
五三、子宮周圍炎
五四、急性副腎炎

（二頁ヨリ）

弊がある（田中氏のことに就ていふのではない）醫者は醫師法によつて同業者の惡口も云へぬし、他の醫師の治療を云々することも差控へねばならない、他を誹謗して自れを宣傳することは勿論許されて居らぬ。しかるにも拘らず療術行爲者にはその點の取締規則が不備であることは當局として三省すべき問題であらふ。

また醫師は醫師法の改正によつて、專門科名の制限を受けた。この制限は至極結構である。醫者の玄關先きに色々の病名を觀兵式の如く並べ書き立てた事ほど醜いものはない。これを劃一的に統一したことは醫師の尊嚴を保つ上からも非常に役立つたことゝ思ふ。しかし乍らこの看板問題が療術行爲者の內では舊態依然として橫行してゐるのは不可解である。

醫者が病名を羅列出來ないのを奇貨として、彼等は大々的に宣傳し、この病氣は醫者には治せず自分獨りが治せるから書いてあるのだといはぬばかに振舞つてゐる。これは同じく治療を目的とする職務の取締り上重大缺陷といはねばならぬ。療術行爲者の醫界攪亂と人心紊亂とはこんな點からも考慮されねばならぬ。卽ち療術行爲者の廣告取締規則は可及的に速なる設定を切望するものである。

また西洋醫者は、從來の舶來醫學が絕對の優秀醫學であるかの如き時代後れの錯覺をぬぎ捨てゝ、漢方醫學であらうが、鍼灸であらうが、よりよき醫學へと向上すべき醫學的良心の涵養を期待する。然らずんば貴公達が鐵壁と賴む象牙の塔がグラ〳〵と崩れ落ちる日もそんなに遠い將來のことではあるまいといふことを忠告して置く。

× × ×

無醫村を行く

……醫療制度改革斷片……

神谷　卓

農は國の基と仰せられた　明治天皇の御言葉は實に古今を一貫せる眞理である。私は農村を歩いてみて事變下の農村が歐米の功利主義に禍され之が閑却さるゝことの甚だしきを最も痛感するものである。祖國日本の將來を想ふとき危懼の念に堪へない次第である。農民が都會のインフレ景氣に憧憬し離村逃亡をしてしまつたら一體我が國は人的物的精神的泉の枯渇を如何にして防ぎ得るであらうか。

然も皇道日本が東亞の新秩序建設のために邁進せんとするには之れ悉く農事に重點を置かねばならぬと思ふ時誰か農民にこの重大なる責務の自覺を待望せざるものがあるだらうか？

今事變に於いて農村が戰線に强兵を供給し、食糧の確保に或は輸出農産物の增産に一生面を開き國力の强化に資しつゝあるを見れば何人も農村の重要性を認識し、農民の存在價値を禮讃せずにはゐられない筈である。然も都市計畫等に依りて農村は次第に消滅化し、功利主義に誘惑されて農民は離村轉業を敢てする。

斯くして農國本の信條が蹂躙されて來たことは皇道日本の悲しむべき現狀である。

我が國歷代の天皇が夙に農村の疲弊を憂ひ賜ひ、農民につき宸襟を御惱まし給ひしことは日本書記にも記されてゐるが、實に勿體ない限りである。況んや皇國の民として生を育ける吾人が、農村の衰亡を憂ひこの更生策を案ずるは當然のことであらう。私は單なる鍼灸家にすぎないが農民の醫療問題に深い興味を持ち、衰亡的日本農村を醫療方面より檢討し、これに或る程度の活力を與ふることの不可能でないことを知りこれに努力してゐる者の一人である。

現下の農村の最大の急務は食糧問題と醫療問題である。

○水害に遭遇した能代川下流の無醫村を訪ふ

田植が濟んで稻は黑づみ、ようやく伸びんとしたところで洪水となつた。稻は勿論畑のものも全滅した。農民は田を棄てゝ畑を生かさうとした、ある者は再び陸稻を買ひ畑へ植ゑ付けた、そこへ二度目の大洪水が來た、田も畑も泥海と化した、村人はこの年の農事を斷念した、そして女と子供を村に殘して若い男と云ふ男はほとんど都會の軍需工場へ出稼ぎに出てしまつた。農民はこゝで生れてはじめて何枚かの札を握つた、然しこれ等の農民は半年もたゝぬまに病氣になつたり、戰爭へ行つたのでもないのにビッコになつて歸つて來た。達者な者は再び村へは歸らなかつた、そして妻と子を置いて行つた一家の主人がようやく月に二〇圓足らずの金を送つてくる仕末だつた。

その手紙には「東京の金は入るとすぐ出てしまふ」と書いてあつた。殘つた村の娘を都會の人買ひが買ひに來た。金を見せれば馬鹿となる、最近の農民心理を之等の人買ひはよく心得てゐる。

娘も恥しい位の程度で賣られて行く、こんな村にゐたところで行末いゝことがあるではなし、斯うした絕望は暗く農村の若い時代を蔽つてゐる。

私が鍼灸家だと聞いて或る農家から往診を依賴されたので重いリクサックを肩に私は再び歩いた、病人は六十四、五歲の老人で心臟病でもう二年も寢てゐるとのこと細君と息子三人暮しであつたが息子は東京に出稼に出たまゝ何の消息もないと云つて泣いてゐた。この老人の話によるとこの村にも昨年頃まではどこかの灸點師がよく出張してゐたと云ふ「現金ではね誰も炷へませんよ、茶椀に二三杯の麥ですよ」と聞いて私は驚いた。この村の總戶數三百二十四戶の中自作が八十二戶小作が百二十三戶他は小作兼自作であつた。この村から醫者のゐる町まで樂々七里はあつた。醫者を呼べる農民は指を屈する程しかゐない。大部分は呼べないし富農から畑とか農具とかを抵當にして借りた金で呼んで見たところで來て呉れない。醫者の手帳に拂ひのいゝ人と悪い人が明記されてゐる由である。醫療はおろか十錢の賣藥さへ求め得られぬ農民が如何に多いことか？　食ふだけには事缺かないやうに思はれてゐる農民が、今一番食ふことに脅かされてゐることは何たる皮肉か？　しかも彼等は自分自身を食ひつくし次の時代までを食ひはじめてゐる。一昨年北海道の農村へ旅したとき某町ではどこの病院も入院患者が一人もゐないので驚いた、理由は簡單で治療費の支拂に困難のためである。

醫療問題は要するに醫療費の問題である、この村の人達が醫者にかゝれないのは當りまへのことだ日に日に淋れ行くこの村にも五、六年前までは町の醫者が隔日に出張してゐたと云ふが、この村で醫業が成立しないので逃げ出してしまつたのであると役場の書記が語つてゐた。

現在醫師のゐない所謂無醫町村は全國で三千四百町村もあると聞くが、これだけの町や村の人達が醫療に苦しんでゐると思ふと仲々國家として由々しき大問題である。能代川畔のこの無醫村は窮乏も特に甚たしきものであるが、是以上の村々が東北や北海道たけでも如何に多いことか、他日筆を改めて書きたいと思ふ。

兎も角現代醫療制度の改革はもはや一瞬時もばすことの出來ないのをこの村々を見て私は痛感した。醫療制度の改革はすでに議論の時代を去つてゐる。革新の矢はすでに弦を離れねばならぬ時代であらう。時も時厚生省の醫藥制度調査會が醫療の公營により國民に醫療の徹底を期し、醫療費國民負擔輕減を圖らんとし、殊に農村漁村に目を向けたことは遲まきながらではあるが結構なことだと云はねばならない。

然し乍らこの案に對して日本醫師會が開業醫制度を根幹から破壞し、延いては醫術の進歩を妨げるなどと云ふ理由のもとに反對決議をなしたことは實に現代の醫師が皇道日本の醫師たる自覺を缺き、あくまでも歐米の功利主義に生きんとするを最も雄辯に物語るものである。

現在の診察料や藥價など醫師に云はせれば不當でないかも知れぬが、患者の負擔とみれば大きい。そのために病氣と知りつゝひどく悪くならねばかゝらぬとか、かゝつても治り切らぬ中に治療を中止するとか、保健衞生上から見ても香ばしからぬことが多い。とまれ國民の病氣は國家の病氣である、過去はどうであつたにしろ、かゝる深刻な社會不安と大衆の自覺がもたらした今日の狀勢に於いては營利主義の醫業、醫師本位の醫療は成立しない。もはや開業醫制度は危機に瀕してゐると云つても決して過言ではないだらう。日本醫師會が如何に强力な團體であつたにしろ唯物自由主義を基調とする現代醫療制度は必ずや近き將來に於いてその崩壞を防止し得ないであらう。

今や皇道日本は東亞新秩序樹立東亞協同體の建設に心身の精をつくしてゐる。吾等は全智全力を擧げてこの聖業を翼贊し奉るべき一員であることを忘れてはならない。

東亞の天地に新しき秩序を立つることは卽ち支那をして正しく導き從はしむるの謂に外ならぬであらう。人を正さんとする者は先づ自己を正すべし、新しき支那の指導原理なる新民主義の趣意の亦是に他ならない。

大陸に日本醫學を宣布する前に吾人は先づ省みて日本の醫療制度を革新せねばならない。靜かに大陸の空を眺めた時、醫師にも鍼灸家にも皇道日本の新しき前進のために大きな使命の我が身に課せられてゐることを知り得やう。

一大勇猛心を以て現代醫療制度を改革し、皇道日本の醫師たる範を世界に示すべき秋である。あらゆる利己的なるもの、排他的なるもの、それは如何に正義と人道の美名を理論づけ、一時的に力を持つとも、恐るべき破滅の深淵に驀進するものなることを知らねばならない。

今は過渡期である。皇道日本の醫師たる者は眞劍に營利的な私心を去つて、日本醫師たる軌道を歩むべきであると思ふ。

この時代にわが東亞醫學協會が宜しく起つて日滿支醫學の提携を期するとともに、國內に於ける醫療制度の革新に邁進せられんことを祈るものである。

更に一層識者の輿論喚起と當路者の決斷を望むや切である。（踏査報告「農民醫學の建設」より）

× × ×

謹告

今月は原稿が輻輳しました爲に切角の玉稿を翌月にまわさせて頂いたのもあります。御寛容下さい協會報告も一回休載致しましたあしからず。（K）

東亞醫學協會

（イロハ順）

役員

顧問　青山楚一
同　荒井金造
同　千倉武夫
同　猪野毛利榮
理事　石原保秀
同　大塚敬節
同　龍野一雄
同　矢數道明
同　柳谷素靈
同　木村長久
同　清水藤太郎

各部役員

一、圖書部　主任　石原保秀
役員　池田千壽
同　西山一雄
二、出版部　主任　大塚敬節
役員　相澤一雄
同　小柳賢一
三、企畫部　主任　龍野一雄
役員　小川春雄
同　內田庄治
四、庶務部　主任　矢數道明
役員　大澤直成
同　氣賀林一
五、政治部　主任　矢數有道
役員　龜田貞
同　吉田一郎
六、鍼灸部　主任　柳谷素靈
役員　西澤生惠
同　戶部宗七郎
七、學術部　主任　木村長久
役員　中村高次郎
同　藤井次郎作
八、藥學部　主任　清水藤太郎
役員　龜岡晉
同　阿久津彌七

最近讀書の内より

龍野一雄

（一）支那歷史讀本　佐野袈裟美　資料は特別珍らしいものはないが、アジア的生產樣式の核心として社會經濟的に考察す。簡明な所が取つき易い。

（二）支那社會構成　秋澤修二　アジア的生產樣式を科學的假面をつけたマルクス的神話なりと決定的に拒否してゐる。同氏の東洋思想を先に讀んでから本書を繙いたので讀み易かつた。

（三）支那社會の科學的研究　ウイット・フォーゲル著　平野・宇佐美譯　太平洋問題調査會に提出された報告書だが、方法論的に書かれ、次の書の序說として讀んでをくとよい。

（四）東洋的社會の理論　ウイット・フォーゲル著、森谷・平野譯　年張り支那の社會經濟史的解析だが實にがつちり書かれてゐる。第二編の支那經濟史の諸基礎並びに諸段階は私に直接有用な資料を提供してくれる。

（五）支那思想發達史　遠藤隆吉　明治四十三年の舊著で古本屋で探し出したものだが、支那の思想問題の要點をよくつかんでゐる。例へば第三編漢代社會の太平では政治的太平、學問の勃興、政治現象、學問は依然として持續すの四章に分れ簡潔に主要なテーマを取上げてゐる。

（六）宋學概說　小柳司氣太　之も明治三十六年の舊著だが、私は今宋學が純粹哲學として發展した過程と陰陽五行說及び運氣論を調べてゐるので參考になつた。

（七）支那哲學の研究　宇野哲人　大正六年の舊著で先生の隨筆や講演筆だが、金玉の文字に富む。其内でも先秦思想概觀、道教の攝生法に就て、秦皇漢武の思想界に及ぼせる影響等を讀みたくて買つた。

（八）日支交涉史話　白柳秀湖　九州、四國、北陸に於ける常世族の分布や、奥羽地方に於ける渤海人の移住など自由な論鋒で書かれてゐて、興味本位に讀むことが出來た。

（九）東洋小文化史　森谷克己　陰陽五行說が書いてあつたので買つたが普通の資料を平面的紹介的に書いてある丈けだつたので少し失望した。然し支那文化史上の諸問題は要領よく取扱はれてゐる。

（十）東洋文化と支那の將來　井上哲次郎　思想、倫理上より觀たる支那事變と東亞の將來を論じ、東洋に於ける指導原理としての「道」を觀念論的に說いて居られる。一寸あまい感じがした。

（十一）觸覺的世界像の成立　土井虎壽賀　主としてニイチエに關する感想と小エッセイである。絕對空に悟道した佛者のやうに、或は自己の良心だけで事の濟むカントのやうに自身以外の人間達から反つて來る反響を超越出來ないところにニイチエの運命は置かれてゐると著者はいふ。最近社會經濟がどうの、辯證法がどうのといふやうな本ばかり讀んでゐる私が本書を繙いたときには何だかほつとした樣な昔の氣のをけない友人に會つたやうな氣がした大塚先生はニイチエに御造詣が深いから是非お讀みを願ひたい。

（十二）哲學と科學との間　田邊元　第一章の常識、哲學、科學に於て常識の矛盾が哲學を要求し、その過程中に科學が媒介的に現出する、然かも哲學は實踐的でなければならぬことを詳論してゐるが絕對否定とか、動即靜とか、所謂禪的行即知の概念をしつかりつかんでをかないと相當難解である。だから私は第三章の科學の成立と同著者の科學概論を讀んで再び第一章を讀直したらよく判つた。

（十三）維新史の方法論　服部之總　明治時代に何故漢方は亡びたか、この問題を講義するために本書も讀んだ。明治維新時の階級、政治過程、明治七年以後等を社會經濟史的に取扱ふ。

（十四）日本資本主義社會の機構　平野義太郎　右の書をもつと詳しく考へやうと思ひ本書を買つた。山田、日本資本主義分析、野呂、日本資本主義發達史日本資本主義發達講座等も追々に讀むつもりだ。

（十五）日本封建制イデオロギー　永田廣志　日本思想の特質を解析したものが讀みたくて繙いた。次の書と共に勉强になつた。

（十六）日本歷史教程　渡邊等　唯物史觀的立場から見直されたもの。

（十七）日本文化論纂　大森志朗　諸家の論文の一部を拔粹して寄せ集めたもので、日本文化研究の浪に乘つた際は物。

（十八）日本生物學の歷史　上野益三　動植物學の發達をかなり詳細に述べてゐる。明治以後は殊に詳しい。

（十九）社會存在論　務臺理作　コギト・エルゴ・スム、行爲的主體、歷史的世界、種的社會等の章より成る。現實的世界を構造する諸契機の一つとしての種的社會の解明を試みたもの。相當難解である。

（二十）支那文學史概說　西澤道寛　素問傷寒論などが一個の論說文學として如何なる地位に置かるべきかといふことを知りたくて讀んだ。手頃の文學史がないので不便だ。

（二十一）女武士道　熊田宗次郎　明治四十一年烈婦傳に關するものを調べる必要があつて日本教育文庫の孝義篇と一緒に讀んだ。此頃の武士道の概念はこんなものかと呆れた。

（二十二）文化類型學　高山岩男　諸民族の文化を（但し諸民族といつても世界的に大きな一系統を成す文化である）他と對立せしめつゝその特性的本質から理想類型にまで再構成しやうと努力してゐる。支那文化の類型を政治的文化、神話の缺乏、天の觀念、形式主義理性と神話的意識との交錯の五項を擧げてゐるが、それは正しいけれど未だ充分とは云へない。（一―四までの諸書によつて相當補ふことが出來る）

此外山邊「哲學通論」古在「現代哲學」永田「日本哲學史」戸坂「科學方法論」は買つて來たまゝで未だ讀了が出來ない。雜誌では上方、日本風俗、江戸讀本、などを面白く讀んだ。

醫者―のみならず科學者に對してしきりに思想の（知性ではない）貧困が云はれるけれど貧困の中にも不足からすつてんてんまでいろ〳〵な階段がある。又藝術家が必ずしも批評家でなく、科學者が必ずしも思想家でなくてもよい。と云つて知識を求めて惡いことは絕對にない。精動の時局に際し銃後の若い者はがつちり勉强しやうではないか。

……×……

新刊紹介

漢方醫學脈症論　完

駒井一雄氏の高弟大倉嘉一氏の近業である。本書は稍々衒學的雅氣と思はれる編輯振りであるが、內容に至つては流石によく消化して居るものといふべきであらう。

（謄寫刷八十一枚價三圓五〇錢。大阪市浪速區惠美須町四ノ六七、東洋醫學院發行）

編輯後記

×日　矢數氏風邪、大塚氏風邪但しすでに快治、季節に早い颱風の爲なるべし。讀者諸氏は御淸康なりや御伺申上ぐ。

×日　近來醫藥業の取締りを嚴にすと聞く。官吏は法によらざるを得ず。現行醫師法は舊時代の遺物にして新しき時代の國民健康を保持增進するに適せず。これ武見太郎氏の指摘さるゝ所の如し、しかもこれを唯一のトーチカ或はタンクの如く利用して保身に汲々たる醫師の哀れさよ。

×日　今月は東亞醫學協會例會は休みなり。ヘボの考へ休むに如かず、ゆつくり寢て休んで凡愚の頭をふり絞らうとでも申さうずるにや。

×日　記者身邊の友人死亡、又×日　記者身邊の友人死亡。皆結核なり。駟も亦及ばず。

×日　記者支那語を習ひはじむ。越えて×日既に上達の意あり。來號は支那漢方醫誌の論文を譯出紹介すべしなどと意氣込む。

×日　大塚氏に本號は脚氣の漢方治法を强請む。御覽の如き力作なり熟讀を乞ふ。

×日　前號同じく大塚氏の赤痢の治療法は漢字紙「天津日報」に大々的に華譯轉載されし由來信あり本紙の記事はなるべく廣く利用され度し、本紙はプラーゲ旋風等は吹かさぬつもり。但し譯載轉載等の場合は一應御通知の仁義に及ばれ度し。

×日　記者一人思へらく、本紙上にも漢方醫學を方法論的に取扱ふ論文欲し。と。しかれどもこれ蟠螂のよくする所にあらじ。我と思はん御仁玉稿もて記者の橫面打著三十し給へかし。

×日　療術行爲を取締り、今後絕對禁止するとか、針灸業者をも大いに取締るとか。匪語紛々たり。甲は療術家や針灸者が無辜を殺せりと喚けば、乙はアヤシゲな注射をしては金を捲きあげて人命を害ふ醫者ありと叫ぶ、誰か鳥の雌雄を知らん。然れども大方これ等のことを言立て喚き合ふ輩はその教養の根底が自由主義的我利々々盲者にして、日本國民の建設的理想を殆んど理解せざる厄介者流なること丈はたしかなり。

×日　耳を漱がん哉。筆を滌はん哉。待たるゝものは秋の日にこそ

（八、六、K）

祝御發展

廣生行勝記

橫濱市中區山下町一四七